

## あなたの人生、自分流？

NHKエグゼクティブアナウンサー・中央大学クレセントアカデミー講師

葛西 聖司

「夫が亡くなり、死んだらお終い、自分のやりたいこと始めなきゃと思っただけです」

英語塾の講師をしていた主婦のこぼれである。始めたのはハーブ栽培。そしてそれを利用した料理や手芸の教室経営も。奈良に近い山間の洋館はハーブの香りと色に溢れていた。

こう書くと、有閑主婦の趣味となりそうだがちよつと違っている。夫と死別したあと再婚。相手はJRの運転士で、やはり離婚歴がある。思い切った第二の人生の選択は妻が自分の夢を叶える為、夫に仕事を辞めてもらったという点だ。

妻の提案に乗った夫は潔よくこういった。「以前の結婚に失敗したから、もう家庭は壊したくない。ただ

反対するのではなく、計画を熟慮して、夢に参加することにした」と。

夫唱婦随ならぬ逆転の関係。提案するのが妻、実行するのは夫。ハーブ畑の開墾、無農薬野菜の栽培、花の刈り取りすべてを夫がやる。

未完成ながら丸太の作業小屋まで手作りし、籐籠編み教室に使っている。今こうした新しい家族関係や生き

方発見をしている人

たちが多い。わたしはそんな家族を毎週、衛星第二テレビ水曜夜7時半からの「人生自分流」で取材している。

わたしも50代、同世代の人生選択を教えてもらい、真似はできないが

意気を学んだり、努力が実を結んでいる例に力づけられている。父母の介護のためUターンして夫

婦で地ビールを作っている元銀行マン。アウトドアが好きな子供のためにアパレル産業を辞め山里でパンを

焼きながら自然環境を与えた両親。

ゴルフ雑誌の編集者が漁師になって妻と半農半漁の自給生活をしているケースなどさまざまだ。

都会暮らしに疲れて退職後は田園でペンション経営を考えると考える人が多

いと思うが、たいていは失敗する。それで生計を立てようとするから帳

尻があわず2、3年で挫折するのだ。成功している人は、年収がたとえ10分の1に落ちても焦らない人たちがばかりだ。現金収入がないかわり、夫

婦や家族の絆、笑顔、汗、心地よい疲労、健康的な食生活…なんらかの

充足感に満ちている。成功の秘訣は、定年になってからでは遅いと判断。45から50歳での再出発計画。そして

新しい地域に溶け込む努力をし、何回か失敗、挫折を繰り返すことだ。たとえば花作りの元商社マンは妻

になんの相談も無く退職、転居、開墾生活をスタート。こんな無謀な夫は普通なら離婚だが夫いわく――

「君はいままでどおり家事と子育てだけでいい、そして金銭的に不自由はさせない」といいきった。とはいえ、2年間妻は夫と口をきかなかった。スーツ姿から長靴、作業着で黙って働く夫にも知らん顔。開墾

途中、台風で全滅。またやり直し。そうして2年が過ぎた頃、妻は初めて整然とハウスが立ち並ぶ農園を見

せられた。そこに立ったとき「お父さんがやりたかったこと少し理解できた気がした」という。土いじりも大嫌い、

なにより虫を嫌がる妻がそれから協力し始めた。

人生80年90年の時代。いくらでもやり直しがきくはず。第二の人生のヒントはあなたの身体の中に隠れているのです。

(昭和49年法学部卒。著書に『名ゼリフの力』など)

